

家計の支出のうち、食料費が占める割合を指す「エンゲル係数」が上昇している。総務省によると、2014年度平均で24.3%に達し、1993年度以来、21年ぶりの高水準になった。各家庭が消費増税で支出全体を抑えるなか、円安などの影響で食料品価格が上昇したことが響いた。

エンゲル係数は家庭のゆとり度合いを示し、係数が高いほど生活水準が低いとされる。00年代以降、23%台前半を中心に推移してきたが、14年度

エンゲル係数 21年ぶり高水準

昨年度24.3% 家計のゆとり低下

に急速に高まった。昨年春の消費増税後、消費者の節約志向が強まり、全般的に支出を減らしている。

2人以上の世帯の消費支出額は14年度平均で28.8万円と、前年度よりも名目で2%減った。自動車や家電など耐久財への支出を減らす一方、節約しづらい食料品への支出は値上げもあって1%増の7万円になった。このため食料品への支出割

増税▶節約 × 食品高◀円安

合が高まった。14年度の消費者物価指数は消費増税分を含めたベースで前年度比2.9%上昇した。このうち食料品の物価は4.4%上がった。円安で食料や家畜用飼料の輸入価格が上がり、店頭価格に転嫁されているためだ。

足元でも食料品の値上がりは続いている。家計が生活のゆとりを取り戻すには、賃金の動向が影響しそうだ。